

第3回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会 会議録

開催日時：平成27年10月1日（木）午後2時～4時20分

開催場所：市役所第2庁舎2階221会議室

出席者	<p>■懇話会委員（敬称略）</p> <p>久保野哲也 安芸高田市まちづくり委員会 正田 建二 安芸高田市まちづくり委員会 前田 奈実 子育てサークル 宮崎 絵美 地域おこし協力隊 吉長 成恭 広島国際大学 高崎 義幸 広島修道大学 毛利 洋二 広島北部農業協同組合 岸本 勇示 安芸北森林組合 今屋えい子 安芸高田市商工会 山崎 敏晴 安芸高田市工業会 小田 忠 （公財）安芸高田市地域振興事業団 益田 茂樹 （社福）安芸高田市社会福祉協議会 住田 希 安芸高田市観光協会 中田 幸子 安芸高田市ふるさと応援の会 藤本 悦志 安芸高田市PTA連合会</p> <p>■事務局</p> <p>武岡 隆文 企画振興部長 河本 圭司 企画振興部 財政課長 村田 栄二 企画振興部 財政課特命担当課長 聖川 学 企画振興部 財政課 経営管理係長 塚本 真樹 企画振興部 財政課 経営管理係 専門員</p>
傍聴者	2人
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <p>1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 安芸高田市人口ビジョン（案）及び安芸高田市総合戦略（案）について 【資料1】【資料2】【資料3】【資料4】 (2) その他 4. 事務連絡 5. 閉 会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1：第2回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会意見回答 資料2：安芸高田市人口ビジョン（案） 資料3：安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） 資料4：安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）削除・修正一覧</p>

会 議 概 要

事務局	<p>1. 開会</p> <p>皆様方には、本日は、大変ご多忙の中ご出席いただきありがとうございました。</p> <p>ご案内しました時間がまいりましたので、只今から、第3回安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会を開会いたします。</p> <p>開会前に、再度、本懇話会の設置の主旨の確認をさせていただきます。</p> <p>皆様には懇話会委員として、総合戦略の策定及び評価に関するをお願いしております。各界の広い分野から選任させていただき、様々なご意見を戦略や今後の施策の展開に取り入れていきたいと考えております。総合戦略は策定をしたら終わりという訳ではなく、毎年検証することとしております。今年度の懇話会は、本日で最終回となりますが、皆様には、来年度以降も「評価」の部分で、委員としてのご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>最初に、開会にあたりまして、吉長会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
会 長	<p>2. 会長挨拶</p> <p>皆様、改めましてこんにちは。本日は足元の悪い中、ご参集をいただきましてありがとうございます。第3回目という事で、前は広い会場でしたが、今回はまさしく額と額を付け合せてできそうな会場です。実りの多い意見交換ができればと思っています。時間の関係もありますが、一人必ずご発言いただくように進行役としては心づもりをしていますので、どうぞ時間の許す限り忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようによろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>協議事項に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前に送付させていただいておりますが、「前回懇話会において出されたご意見に対する回答」、「安芸高田市人口ビジョン(案)」、「安芸高田市まち・ひと・しごと総合戦略(案)」、「総合戦略(案)削除・修正一覧」でございます。お持ちでない方おられますでしょうか。</p>
事務局	<p>3. 協議事項</p> <p>それでは、協議事項に入りますが、懇話会の要綱により、会議の議長は会長となっておりますので、これからの進行については、会長にお願いしたいと思います。</p> <p>会長よろしくお願いいたします。</p>
会 長	<p>(1) 安芸高田市人口ビジョン(案)及び安芸高田市総合戦略(案)について</p> <p style="text-align: center;">【資料1】【資料2】【資料3】【資料4】</p> <p>それでは、早速ですが議事に入ります。次第にご案内しておりますように、今日の協議事項は1件です。安芸高田市人口ビジョン(案)及び安芸高田市総合戦略(案)について、資料1・2・3・4を基に、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>まず、資料1「前回の懇話会でいただいた意見についての回答」ですが、懇話会での意見について、それぞれの担当部署からの回答を集約して本日の資料としております。</p> <p>いただいたご意見を参考に施策を進めるものや、今回の総合戦略の施策に付け加えた表記に修正したものもありますし、これからの検討課題とさせていただくものもあります。例えば3番目・4番目のような保育料一人目からの無料化、不妊治療の全額補助など財政</p>

的課題を伴うものもあります。どちらにいたしましても、今回いただいた意見については各部署への周知をしておりますので、今後の施策の展開に参考とさせていただきたいと思っておりますのでご理解ください。それぞれの回答につきましては、すでに確認をいただいていることと思いますが、後程ご確認をいただくということで、本日この場でひとつずつの紹介は省略させていただきます。

続きまして、人口ビジョン・総合戦略について、前回の懇話会以降、修正を行った点について説明させていただきます。

まず、資料2の人口ビジョンと資料4の修正削除一覧で、人口ビジョンの修正点を説明します。

資料4は、1枚めくっていただいて、3ページの中ほどからになります。資料2の人口ビジョンの方は、5ページをお願いします。人口ビジョンの5ページの(4)自然動態(出生・死亡)の推移の記述がしてある枠の中の1つ目の○の記述を修正しています。減少傾向という表現でしたが、減少から横ばい状態と修正しました。

次に、人口ビジョン18ページ、19ページをお願いします。(6)として従業・通学の状況を新たに追加しました。18ページは安芸高田市に住んでいる人がどこに就業・通学しているかというページです。これによると表4-2で安芸高田市に住んでいる人の78.3%は安芸高田市内に就業していますが、15歳以上の通学では約半数が他の市町へ通学しているという結果が見えます。また、19ページは安芸高田市に就業・通学している人がどこに住んでいるかについてです。これによると、安芸高田市に勤めている人の約76%は安芸高田市内から通勤しており、通学では約80%が安芸高田市内から通学しているという結果となっています。

続きまして、26ページをお願いします。このページも前回の資料にはなかったもので、人口が減少することによる小売事業所への影響を推察したもので、県内の50万人未満の市を対象として、人口と小売事業所との関係を式にして、人口減少による影響を考察しています。これによると、2007年355事業所が2025年303事業所、2040年262事業所となり、小売事業所が人口減少の影響を受けると推察されます。

続きまして、38ページをお願いします。中段の自然増減の枠の中の2つ目の○の記述を修正しています。出生数と出生率の関係の記述ですが、以前は婚姻率の低下のことも含めて記載していましたが、わかりやすい表現に修正しています。

続きまして、40ページの①と⑤の枠の中の記述も修正や追加を行い、女性に関する記述を加えています。

ここまでが人口ビジョンの修正です。あくまで表現や記述の追加・修正をしたもので、数値的に変更したり、目標数値や課題・方向性といったものを大きく変更しているものではないことを申し添えておきます。

続きまして、総合戦略の削除・修正についてです。資料4の削除修正一覧は表に戻っていただき、1ページからになります。資料4の1ページ目の削除の項ですが、ここに掲げた施策は総合計画に記載されていますが、今回のまち・ひと・しごと創生ではなく、行政改革の項目や市役所が当然行うべきもので、今回の趣旨と関わりが無いものを削除することとしました。

資料3の総合戦略の具体的施策のほうでは、網掛けでこの項目は表示していますが、最終的には総合戦略からは削除する予定としています。

修正について、総合戦略の5ページ、6ページをお願いします。20代の女性の動向についての記述を追加しました。5ページでは、社会減の要因の上から3つ目の○に「地方の人口減少の要因となる出産年齢人口に関連して、直近の2005年から2010年の間では、20歳代女性が転出超過となっています。」6ページでは、③の若者の流出を抑えるの3つ目の○で、「また地方の人口減少の要因に関連する20歳代女性が転出超過の傾向にあり、この流出を抑える対策も喫緊の課題となっています。」と追加しています。

続きまして、12ページから15ページのリーディングプロジェクトごとの施策の体系分けのところですが、そのうち資料4で言いますと下の3つと2ページ目の上から5つの施策についての8つの施策を、施策内容から考慮して体系の中での位置を変えました。資料4のほうで、内容のところでは施策体系変更としてアラビア数字と○つき数字が書いてありますが、アラビア数字のほうが総合戦略で言います市のリーディングプロジェクトを示しており、○つき数字が横軸の国の基本目標を示していますので、成人教育の推進で言いますと、リーディングプロジェクトⅢの「時代を切り拓く青少年の育成」の国の基本目標③ということで、15ページの左上に位置をしていましたが、そこからリーディングプロジェクトⅣの「コミュニティ活動の高度化」の国の基本目標④ということで、同じページの右下に移動しました。同様の理由で、以下7つの施策についてもそれぞれ体系表の所属を移動しています。

削除修正一覧2ページ目の6段目からは、具体的施策の取組の記述の修正やKPIの数値を具体的に金額にしたものなどをあげております。資料3の総合戦略の19ページをお願いします。施策番号118の3つ目の○の記述を「女性や定年退職後の就農者を」と女性を追記しました。

続きまして、22ページ施策番号4-3です。KPIの指標名を「遊休農地の解消」から「遊休農地の割合」といった具合に、何の数字なのか分かりやすくしました。同様に27ページから29ページでも3箇所の修正をしています。

続きまして、31ページをお願いします。施策番号90国民健康保険制度の運用のKPIを、ジェネリック医薬品の「普及率」であったものを「効果額」として、金額での目標設定にしました。

32ページ施策番号112女性に対する暴力の根絶と相談体制は、KPIが設定されていませんでしたので、終結率をKPIとして設定しました。

続きまして、39ページをお願いします。施策番号91環境保全活動の推進の2段目の方針の欄を「環境基本計画に基づき、環境保全を積極的に取り組みます」と修正しました。

40ページ施策番号116-1農地の効率的利用と生産基盤の整備では、主な取組みに41ページ施策番号116-2の主な取組みにあります「○ほ場整備の計画的な推進、かんがい排水、農道、ため池等、生産基盤の整備を進め、優良農地の拡大を図ります。」が116-1にも記述があり、重複がありましたので、116-1から記載を削除しました。あわせて、KPIの現状値と目標値の単位が誤っていたので修正しています。

41ページ施策番号119農業生産の振興では、「産直市の施設整備と機能の充実を図り農家所得の向上を目指します。」の一文を追加しています。

42ページから45ページになりますが、施策番号の123、125、126、127、128で、目標値が増加や維持を目指すとなっていたものを、具体的に金額設定を行いました。

続きまして、50ページ、51ページをお願いします。施策番号26、39は、KPIが2つあ

	<p>ったものを1つ削除しました。</p> <p>57 ページ施策番号 33 学校施設・設備の整備では、KPI の指標名を「学校施設・設備の整備」であったものを「理科教育設備整備率」と変更しました。</p> <p>同じページの施策番号 36 給食センターの円滑な運用では、「おいしい給食」、「地場産物を活用」と表記を修正しています。また、KPI も「地場産物活用の推進」から「地場産物活用率」に修正しています。</p> <p>61 ページの施策番号 56 では、主な取組みの1つ目の○を「保育所・幼稚園・学校や地域等において防火に関する正しい知識の普及に努め、自分の家や地域から火災を発生させないという火災予防意識の醸成により、火災発生件数の減少を目指します。」に変更しました。</p> <p>続きまして、63 ページ施策番号 60 防災体制の充実では、「自主防災組織の拡充に力を注ぐと同時に、「自主避難」を促す啓発と対応体制の確立に努めます。」を追加しました。</p> <p>70 ページですが、施策番号 128 は先に説明しましたとおり、目標値を具体的に金額表示にしました。</p> <p>簡単ではありますが、修正箇所について説明をさせていただきました。なお、10 月末の策定を予定しているこの総合戦略ですが、現在、修正箇所等がわかるように赤字や網掛けで表示しているものを整理して、現在、パブリックコメントを行っていますが、その結果や、さらに本日の懇話会での意見等で修正等が必要となった部分の修正を加えて完成と考えていますが、今後、担当課と再度協議を重ねて、KPI の修正や変更を行うことがあることと、翌年度以降、検証をしていく中で目標数値の変更もあることをお含みおきいただきたいと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>事前に少し資料を眺めていただいているかもしれませんが、まず資料1の方は、前回の懇話会での皆さんからのご意見に対しての回答がまとめてあります。ご発言になられた方々には、各自チェックをしていただいていると思いますが、もう一度少し確認をしてみてください。それから、人口ビジョンのデータについては、数値は変わっていませんが文言が分かりやすく修正していると説明がありました。また、資料4は行革の内容と重複しているものについて削除されたものと、修正点についてページを追って、資料4のページに従って、修正箇所の説明をいただきました。</p> <p>少し内容が多いので、少し時間をおいて、その後に皆さんの気になる点や違っているといった点をご指摘いただきたいと思います。少し資料を眺めてみてください。</p>
<p>委 員</p>	<p>よろしいですか。ずっと住み続けたいと思う市民の割合が44%しかいないということで、前回お話をさせていただきました。ここの中で、交通とかが不便だという方と、それから医療・福祉サービスが問題ですということをご指摘いただいているのですが、その中で具体的施策で77番と78番、資料3の64ページ65ページで、具体的施策14、施策番号77番の生活支援サービスの充実として、できるだけ長く地域で生活できるよう、地域包括ケア体制を強化しますとなっております。78番についても地域福祉体制の構築で同じ記述になっている。これは問題があるのではないかという気がします。それと施策番号76番のKPIの現状値が1,294人で目標値が2,500人にぐっと上がっている。何か具体的施策があるのでしょうか。</p>

会 長	具体的施策で 77 番と 78 番の、できるだけ長く地域で生活できるよう、地域包括ケア体制を強化しますという文言が同じ内容になっている。これについて支障があるのではないかとこのことですが。事務局の方で説明をお願いします。
事務局	その点について、施策名の下に 1 行書いている文については、総合戦略の基となります総合計画のほうで、大きい括りの施策目標の下に要点を記載している部分があります。総合計画の 82 ページになります。19 高齢者福祉の充実という大きい施策目標の下に方針として 3 行ほど書いてありますが、その中から合うもの・近いものを総合戦略に記載している状況です。今おっしゃっていただきましたので、これにこだわらず記載内容について再度検討させていただきます。
会 長	何か具体的な文言の提案があればお願いします。
委 員	生活支援サービスの充実ですから、生活サービスの記述をされたらどうですか。78 番は体制の構築なので良いのですが、77 番は生活支援サービスを充実しますという記述で良いと思います。
会 長	表題と似たような感じにはなりますが、具体的に言うとな下の主な取り組みになりますので、1 行目は生活支援サービスの大枠の文言で良いということですね。地域包括ケア体制を強化しますでは違和感がでてくるということでもよろしいですか。
委 員	サービスを充実するですから、体制の強化ではおかしいと思います。工夫していただければ。
会 長	分かりました。主な取り組みを反映したような包括的な言葉にするという事ですね。
事務局	具体的施策 13 施策番号 76 の KPI の指標についての質問ですが、高齢者福祉課から個表を提出された折の根拠データとしては、一次予防事業いきいき介護予防教室の実績報告の数値を基に現状値を設定しており、目標値については平成 25 年度の実績を基に担当課が設定しました。
会 長	参加者数が増えると、それだけ需要が増える。そうすると担い手もいるという事ですね。増えれば良いという話ではなくて、地域社会全体にこの課題が膨らんでいるということですので、これに対してのマンパワーも必要になってきます。少なく見積もると参加者が少なくなるということになります。今の回答でよろしいですか。 その他お気づきの点がありましたらお願いします。
委 員	リーディングプロジェクトの中の若者の定住促進強化の中で、住む場を整えるという 1 つの項目があります。12 ページですが。それに当たるのか、もしくは 15 ページの 4 番目コミュニティ活動の高度化に当たるのか分かりませんが、前回お話をさせていただいた今の集落なり地域の担い手が減ってくる中で、その地域の自治機能そのものがかなり低下をする恐れがあると思います。今住んでいる住民の方々がその集落でその地域ですと暮らしていくために、その担い手をどのように確保するか。若者の定住ということも 1 つあるかもしれませんが、やはり集落を超えた区域での横の連携を図るという事もあると思います。そうした地域の担い手をどのように確保しながらそこに住み続けるかという要件を整えるかといった地域の自治機能そのものをどのように担保するかという視点が少しあってもいいのではないかと考えます。今、国交省等でもう少し広い範囲での小さな拠点と動きもありますし、又は集落の担い手をどのように確保するかという視点で各省庁で色んな施策を出されていますけれど、やはり安芸高田市の現状を見たときに集落の中で本当に地域を担う人がいない、あと 5 年経ったときにどうなるかとか、あと 10 年経ったら地域な

	り集落がどうなるかということで、なんとなくおぼろげながら不安というか、なるようになるよという形はあるかもしれませんが、地域の中で暮らすためのひとつの施策というものも、集落なり地域の自治機能の在り方にはもう少しこの中に入ってもいいのではと感じています。
会 長	非常に大事な視点だと思います。15 ページのコミュニティ活動の多様な人とつながるというところで、施策 106 だと地域振興組織の活動支援で、誰が集落あるいは地域振興組織の活動支援をするのか、市が支援する施策だけが書いてあると思いますが、連携していくとかに支援するというところもあるでしょうし。
委 員	振興会では、そういうことで 32 ある中での熟度そのものも大きく違うんです。目標なり目的なり、目的そのものと実際の活動に色々差異がある中で、そこが地域をまとめるという形にはなかなかならないかもしれない。自主防災組織という形で色々動いているところがありますけれど。
会 長	歴史的には消防団というのは、そういう意味では目的と結束力があって、自治消防の機能を維持してきています。そこから派生した文化も生まれているかもしれない。自治機能の低下は非常に解決しなければならない大事な課題ですね。
委 員	具体的に言ったら、中山間の直接支払制度というのがあるのですが、それを年間 100 万、200 万といった農地を維持するための費用があるのですが、その事務が出来ないということで手を上げられるところも出てきている。そうすると農地が荒廃するという連鎖がありますので、そうした事務などをいくらかの地域や集落がまとめてやるような中間支援機構的なものの立ち上げも考えておく、準備しておく必要があるのではないかと思います。振興会等がするところがあるかもしれないし、6 つぐらいの集落が話をして一緒にしようではないか、事務はまとめてやろうではないかという動きを後押しするような施策がいるのではないかと思います。
会 長	すごくよく似た事例で、公営団地の町内会の維持が出来ないので、NPO とか町内会に住んでない人が事務的な業務を担うことを公募したりしています。それとよく似ています。つまり、それは根治治療ではないのですが、今やらなければならない過渡期における方向のひとつだと思います。そういう施策については、事務局側で何か関係した施策がありますか。各地域振興組織の目的なり性格は、それぞれ個々に特徴があるので、一律して万全にしてこうやるというのはなかなか難しい、政策を押しにくい部分かもしれません。
委 員	振興会それぞれやっていることは全然違うので、一律にこうという事はできないと思います。支援することで言えば、中山間地の事務などは出来ないことはないと思います。ただし、今の農業をやっておられる方はなかなかこういったことを出してこれれないと思います。非農家には分からないし、分からせようもしないのかもしれませんが。とっつきにくい面があるのです。それが全部出てくれば、こういったことがあるのでやってくれないかと話があれぱとっかかれますが、表に出て来ない。
会 長	何がしてほしいかという事すら出て来ないという事ですね。それをちゃんと政策に乗せるような支援ということもありますね。なかなか困っていることを皆で一緒に解決しようという空気に今はなっていないということですかね。
委 員	そうやっていければ、もう少し振興会の方も人材育成を考えて、若い人がどんどん活躍できるような体制を執っていかないと、今はほとんど動いている人は我々みたいな人ばかりですよ。

会 長	<p>そういう意味では、子育ての課題は割合女性群は本音で話ができるような雰囲気があるように思います。ニーズが顕在化しないときに、こちらから政策でこうだといっても空振りしてしまうということもあるということですね。そうならないような政策をとということになりますと根源的な課題になってきますね。</p>
委 員	<p>その関連で、福祉の方も今、介護予防とか地域包括にもありましたが、高齢者も含んで地域で皆を巻き込んで地域づくりをやりましょうというところですね。福祉を使ったまちづくりということで、その中にはシルバーさんとか振興会さんとか色んな方々が参画して、今後出てくるであろう NPO とかボランティアとか、そういった住民の方で地域を支える福祉を作ることが取り組みになっている。その中で、施策としては 107-1 と 107-2 をここで挙げておられるので、そこに今まで個別に行政はやっておられたのですが、縦割りではなく横へ展開していただいて、農業も福祉も何もかもまとめて課題を出してもらって地域で支える取り組みをする団体、例えばシルバーでも福祉の方へ出て行ったり色々展開ができるのだと思います。人口が少ないのですから、皆でやらないとしょうがないという情勢を作り上げていく必要があるのではないかと思います。先ほど言われたように、できないのならできる人が集まって誰がするのかというところまでちゃんとサポートしてあげないといけないのではないかと。神楽では色んな団体が集まってうまくやって東京公演まで行った。その力があるのだから、そこをこっちの方へ向けていただければ展開できるのではないかと思います。書いてある通りですが、具体的にどうしていくかが問題である。</p>
会 長	<p>地域包括ケアは、高齢者に限った話ではなくて、子ども達のことや、ある意味地域におけるサービスの新しい公共サービスの在り方が問われてきていると思います。地域包括ケアの体制を強化するという事は奥の深い話ですね。</p>
委 員	<p>私が申し上げたのは、実際に取り組まれている地域がある。羽須美というところですが、そこは集落が非常に厳しい状況にありまして、事務ができない、農協や共済や地元の嘱託員が出せない。その 5 つか 6 つの組織を束ねて事務局を一人置いて、そこが全体的な事務を行う。その人が中山間や農地の事務もある程度請け負って、中山間であればその 10% や 15% を取り組んだ手数料としてもらう。そういう形の中で、実際にやむを得ずやらざるを得ない状況になっているところもある。それを転がしているところもあるので、そこらを踏まえて安芸高田市でも集落や地域の状況がでてくると思いますので、今のうちから準備をして、それを振興会がやるか振興会以外の組織がやるかは別にして、集落を地域を守っていく準備は、今のうちから何らかの形でアクションを起こしておく必要があると思います。今回の具体的施策に打ち込むということは難しいかもしれないが、今後の政策の中にそれは少し盛り込むということが必要だと思います。</p>
会 長	<p>自治組織の機能低下に、協力隊に来てくださいということはどうですかね。その方が地域に根付いて、いくつかの自治組織をまとめて、その業務でもって地域に住んでもらうことができないですかね。</p>
委 員	<p>ちょうど今日、安芸高田市の U・I ターン者が集まってざくばらんな話をしようという会議を計画してまして、それをしようと思ったのが、各地域で集まる場が、年代層がすごく高くて 30 代、40 代の方は子育てがあるので夜出られないとか、出ようという思いがあるが上の方の圧もあって言葉に出せないといったことを耳にしたので、ひとまず 20 代から 40 代ぐらいで集まって、皆さん個別に聞くと自分の仕事が一番は地域に繋がるシステムになればいいと言っていましたので、まず、話す場というのが無いというのがあ</p>

	<p>ったので、それを施策としてやるまでではないので、ひとまず地域レベルで集まって、住民から動き出してそれから行政を巻き込んでいく形が無理が無い。まずは地域レベルで動いて、それから行政が必要だと実感したら施策なり、取り組みなりの補助をしてもらえたらいいと思います。今日が一発目なのですが。ざっくばらんに話す場は街と違って皆さん地域も大きいですし、人口は少なくても住まいも点在していて集まるコミュニティの場やカフェが少ないと実感しています。それをまるまる街と同じものを作るというのは無理だと思うので、まず集まる場を作ってやってみようかと思っています。</p>
<p>会 長</p>	<p>ある世代で集まる場ができると、そこに違う世代の方が集まってきて、そこでニーズが顕在化する、関係性が出てきます。それにはいきなり行政の視点が必要なわけではなくて、こつこつやっていて、できるならば行政的な形でもってさらに充実して、うまく公民のパートナーシップができるような場に成長させるというイメージですかね。サロンやクラブという集いは、歴史的にはすごく大事な場です。具体的な場所でもあり話が出る時間でもあり人でもありということなので、既存の施設に手を加えるとか、もともと公民館であったところをカフェにする、新しいイメージの看板を掲げる。名前を変えるだけで随分違います。参加する気持ちが違うと思います。そういう拠点づくりから始めるという民間の発想は施策とうまくリンクする書き方ができますか。これは先ほどから出ています15ページでは施策106や107はその話ですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>施策で言いますと71ページの106番になりますが、具体的に何をやりますということまでは書ききれていませんが、地域課題の解決に向けて地域と行政の協働による人材紹介、情報提供、また先ほど話がありました地域おこし協力隊等の外部人材の活用による活性化というところで、大きい見方をすればこの部分での取り組みになると思います。地域振興組織ということで位置づけをしていますので、そこを少し柔軟性のある自治機能として、個別の集落単位の問題もかなりありますので、地域振興会に特化せずに自治機能という視点であれば集落単位も入ってきますので、そこらを少し加味した形で、おっしゃることについては、これから具体的な課題として出てまいりますので、5年10年先をにらんだ形の中では地域振興会も大切ですが、それぞれの地域の自立ということもありますし、人材を育てることも必要になってまいりますので、人材を活用するとなれば、例えば行政のOBなどが中山間などの事務を代わりにやることも考えられます。</p>
<p>会 長</p>	<p>例えば71ページの施策番号107-1の主な取り組みのところに、○を1つか2つ増やすということはできますか。例えば、今の自治機能の向上のための拠点づくりをするとか、文章的には具体的にはカフェであったり、さらに○を増やして人材を育成する、それは協力隊の人であれIターンUターンJターン、市内の人であれ良いわけですけども。こちら辺りに包括して○を1つ増やす、2つ増やすという形で充実すると思うのですが。他の方々はいかかでしょうか。これはすごく大事なことだと思います。ここだけの問題ではなく全国区の問題です。実はこの10月10日に三次で里山・里海シンポジウムをやることになっていまして、社会的企業の話をして。私自身が中国地域のソーシャル・エンタープライズという社会的企業の推進役をここ何年もしているものですから、国内外の動向についてお話ししようと思っています。これがビジネスになるということが大事であって、ビジネスになることによって雇用が生まれると、先ほど委員がおっしゃったように10%ずつもらって、ひとり雇用できてそれが生業としてできれば、それは地域の課題を解決しながら雇用が生まれるということなので、住民参加体制があきらかにできてくる。これが羽須美</p>

	<p>では作り始めているということですよ。これを書いておけば、実行していくときに KPI について満足度というところでどうなったかが関係してくる。是非この辺りを〇を1つ2つ増やすということでもよろしいでしょうか。主眼としては自治機能を低下させないようにではなく、向上させるということにしませんか。少しファイティングポーズを見せる形ですね。</p>
委員	<p>行政が持って国から流れてくるお金があるのですが、それを今言われたように中山間や地域包括の関係で地域支援事業とか色んな事業の展開がありますので、それらを使った支援が地域おこし協力隊の中に出していると思います。ちゃんとできている仕組みを行政の中に抱えずに少しずつ出していけば、それで事は解決すると思います。全てがうまく回るようになると思います。そのように書いてあるように思います。</p>
会長	<p>安芸高田モデルとしての自治機能向上のための、国の施策のお金と民間等でうまく市がコーディネートして成り立つものを生み出していく、創造していくことが大事だと思います。今の指摘は大事なポイントだと何度も繰り返して言いますが、実際にこれやっていくのは我々自身ですので、自分で宿題を出している話ではあります。その辺のところで事務局で文言を、私の方も副会長さんと一緒に考えていきますが、よろしく願います。その他お気づきの点、子育ての辺はいかがですか。前回の意見に対する回答が出ていますが、それで大丈夫ですか。今、パブリックコメントで意見を募集していますので、意見が出てくるかもしれません。指摘や新しいアイデアが無いようでしたら、感想でも結構ですので、是非ご発言をお願いします。</p>
委員	<p>資料1の8番目のずっと住み続けたいと思う市民の割合は44%しかないというところで、非常に良いことを突いているご意見だと思っていますが、現実、ここに住んでいる3万人の方がどう思っているか、もしくは安芸高田市以外から通われる人たちが何故ここに住まないのかということを一人数ずつ、できるかできないかは別にして、一人数ずつ話が聞けたら本当の実情が見えて何をやるべきかがはっきり分かってくると思います。意見に対する回答は充実を図っていきますとぼかされている気がして、非常に残念に思います。それと、いくつかの回答で通勤・通学等が不便14%、これもアンケートでは中身がどうなのか年齢層がどうなのかが分からないので、できればできる限りの人に実際にヒアリングをしていただけたらもっと明確な答えが出てくるのではないかと思います。全体的に言えることは、いついつまでここまではやりますと、例えば1年後にはここまでやってみて結果を出します。それで進捗具合を確認するというをやらないと、目標年度の平成31年までずるずる行ってしまいそうで、一つ一つ1年毎にここまではやりました、結果を検証していくという手法はできないかと考えます。</p>
会長	<p>アンケートを出して分類すると非常に情緒的な部分が削られて、福祉サービスや交通など、誰でも理解できるカテゴリーに分類されてしまって味がでない。</p>
委員	<p>住みたくないと言っても、1つや2つで住みたくないとは言わないと思う。色んなものが複合して、個別に複合している内容は違うのだが、アンケートではそれが出て来ない。本音が分からない。10人中8人が同じような悩みを抱えているとしたら、これは非常に高いポイントだと思いますがアンケートには出て来ない。それを一つ一つ拾っていくことによって何が問題なのか、住みたいと思う人は家があることがかなりのウエイトだと思うのですが、それも代が変わると愛着が無くなっていくので出て行ってしまおうとか、そういった理由があると思います。安芸高田市以外から2千人も3千人も通ってきているが、広</p>

	<p>島市内の人は広島市内を愛していて、安芸高田市に住めば通勤も楽になるがやっぱり広島市内が好き。これはアンケートと一緒に全てではないですが、そういう理由があるのだと思います。中にはそういった違いはなくて土地が安くて会社に近いのだったら安芸高田市に住んでいいという人もいるかもしれません。例えばアンケートを採りたい、アンケートだけではなくて実際に訪問してヒアリングがしたいということであれば、話をしてお協力はできると思いますので、それを踏まえたうえで考えていただければと思います。</p>
会 長	<p>アンケート上は、行政の仕事であったり社会的な課題であったりするのですが、本当は情緒的な問題が潜んでいる可能性もあったりとか、どこまで介入するかは別として、複合的にその結果として自分がここに居を構えようとしなくていいとか、断る理屈はいくらでもありますから、ただ、良いと思うところを伸ばせない理由が何なのかというところを、密にコミュニケーションをとるということから必要なのかなという気がします。この総合戦略の中で、この部分の情緒的・感情的なものをどうすくい上げていくかというのは、なかなか難しいことかもしれませんが、人間がそこに住むかどうかというのは、ある意味総合判断でもってそこに住むわけですから、複合的なことが含まれて、例えば空き家に新しい人が入ってきたときに住みやすいか住みにくいということも関係するかもしれません。</p>
委 員	<p>何故ここに住みたくないのかとポイントを絞るだけでも良いと思うのですが。何が嫌なのか。</p>
事務局	<p>総合計画の資料編になりますが、140 ページに定住意向がありますが、ここを見ると、ずっと住み続けたいと回答した人が 44%、どちらかといえば住み続けたいという人が 40%で、足せば 8 割の方は住み続けたいという意向があります。先ほどの話は 44%に特化した話ですので、全体では 8 割は住み続けたい。それと 141 ページの住み続けたくない理由がありますが、そこを見ますと下段になりますが通勤・通学などが不便が 1 番多い、以下医療・福祉サービスが充実していないといった順番で理由があがっています。これは 18 歳以上の住民の方のアンケート調査の結果ですが、ここを見ていただけたら全体像が少し詳しく分かってくるのではないかと思います。</p>
委 員	<p>今の 8 割の人が住み続けたいというのは理解して発言したのですが、後の何%かは住みたくないということは外からは来ないということになるのでは。今住んでいる人はどんどん人口が減ってくるので、何故ここに住めないのかという切り口で話をしました。総合戦略の 24 ページの施策 12 番で、新公共交通システムの充実というのがありますが、その重要業績評価指標が、お太助ワゴンの利用者数（1 日当たり）が 181 人で目標が 180 人で下がっている。これは限界数値だと思うのです。これをやっても何の施策にもならないと思います。他にも中山間の直接支払いが 22 ページですが、2,468ha でこれを 2,400ha にするとあり、下がっているのです。それであれば他の数値にして上げるにしたほうが良いと思います。だから切り口として他に指標があるのではないかという見方ができないかという気がします。下がっている目標では夢が無いのでは。人口が減るといっているのは分かっていますが、他の数値に置き換えられないかと思っています。</p>
会 長	<p>ご指摘のように、この数値が増えれば夢を描いている話ではなく、介護士が増えるのは高齢化が進んでいる裏付けになるのもありますし、減ることが暮らしやすいまちに近づいているということもある。右肩上がり数字が上がることだけと一元的には読んではいけないことが実際にはあります。ご指摘のお太助ワゴンの話ですが、これは事務局の方で目標値に対しての根拠はどのようなものですか。</p>

事務局	先ほどから下がっている KPI があるとの話ですが、人口が減る中で現状維持が精いっぱいのところもあります。180 人の根拠ですが、1 便 3 人乗って 10 台の 6 便は確保・利用いただきたいというところです。
会 長	実質、利用者人口が減る中で数値化すると、こういった目標値になるということですね。
委 員	その中で、高齢者の方が 70 才、80 才になってもまだ運転免許を持って頑張るといところとのリンクはどうでしょうか。
会 長	そうなりますと、ここのタイトルが新公共交通システムの充実ですから、こことは離れてくると思います。以前テレビの仕事をしていましたら、ぶつかってもいい二人乗りの車を最初に購入されたのが安芸高田市の人だと、その車を作った広島大学の先生とスタジオで一緒になったことがあります。個人で動く安全な車が開発されると公共交通の利用者が少なくなるという話にもなります。しかし、このシステムを充実させるということですので、充実となると利用者の数が一般的だと思います。
事務局	5 年先の目標値ですので、5 年後においては総人口が約 1,500 人減ってくるので、横ばいの目標値をあげるということは、逆に言えばその数値目標は高く設定しているのご理解いただきたい。
会 長	人口の低減の割には、新公共交通システムが非常に使われるということは充実してきているということの現われになっているということですね。
事務局	現実的には、現在の利用者数を維持するということは、新たな利用者を掘り起こすということに繋がってきます。
委 員	聞いた話なので真実か分かりませんが、3 時でバスが終わる。一般のバスよりも遅い時間は走らせないとか。今言われた 1 便で 3 人と言われましたが、皆さんが欲しいのは夕方の中で、乗ろうと思った時には終わっていて乗れないと聞きました。また、健康診断あったときに、一斉に始まって一斉に同じ時間に終わるので、10 時に終わって 10 時のバスに 10 人しか乗れなくて、それに乗れなかったから 1 時に頼んだので、ここでずっと待つんですと言われていた。ですので、横の繋がりが無さすぎると思います。各支所に何でも聞く課があると思うのですが、地域で聞く声を地域で話をもって欲しい。支所に行って聞くと本庁に確認しないと分からないとか言われるので、もっと声を聞き上げることを支所にもって欲しい。ここの政策の中に地域がない。各支所が何をすることが無い。
会 長	総合戦略の 24 ページの新公共交通システムのところに、「住民ニーズを踏まえた運行システムの継続的改善により、更なる利便性の向上とシステム定着を図ります。」と書いてあるので、そこに包括してあると考えます。ただ、ここの事例ではないのですが、20 年以上前に 54 号線に道の駅をつくるというときに、ドライブインが潰れたらどうしようという話と同じだと思います。要するに公共サービスが民業を圧迫するという構図がどうしても出てくる。私たちが広島から 54 号線を通して大山にスキーに行くと、頓原のドライブインなどが繁盛していて皆そこでひと休みしていましたが、民業圧迫で、この前頓原のドライブインは閉鎖されていました。それで住民の満足度はどうなのかという話がでてくるので、これは公民の連携と一方では言いますが、業務的には圧迫するといったことがあります。これの折り合いのつけ方は、こういう書き方しかできないのではないかと思います。住民のニーズを拾い上げるシステム自体から変えないといけないという意見がありました。支所に聞いたら本庁に聞いてくれと、その部分も深いところで言いますと行革の一つかもしれません。

委員	横の繋がりがもっとあれば良いと思います。1つの例の新公共交通システムで言いましたが、1箇所の所で健康診断があったからそこに集中するわけで、だったらその時間帯だけ他の地域からバスを借りてくるとか、横の繋がりができるのは市であればできるのではないかと思います。
会長	前回の懇話会で、八千代の公園で何かしているときに法事がという話と同じですね。場所の使い方。それが忌み嫌うものかどうかは別にして、国が変わればお葬式に出会うことは幸せが育つという考え方に置き換えれば、今日はお葬式に出会ったから良かったね、幸せが来たねという考え方もある訳です。ですから、多様な価値観をいかに1つのテーブルの上で出し合うかということと、例えば、行政のシステムにはすぐやる課という窓口ができたときも新奇的な話です。そういう意味でまったく進んでいないわけではなくて、随分新しい市のサービスのシステムが、安芸高田市は随分進んでいるという印象があります。ただ、これで満足している訳ではなく、そのためにKPIを基に更なる充実を図っていくということだと思います。この懇話会の意見は、総合戦略の文面にうまく表現できるものと、書きたいけどうまく書けないものと色々出てくると思います。これからは地域において多世代の意見交換ができるカフェやサロンなどができていって、それが縫い目のない形で地域別に公共のサービスがどんどんできていくという方向だと思います。それに一石を投じるのが総合戦略だと前向きに考えていきたいと思います。他の方々の意見も是非、なかなか良くできているということでも良いですし、ここは断固として反対ということでも良いです。
委員	19 ページの施策番号 131 ですが、評価指標の目標値が、新規起業数の現状値が、年1事業所となっており、目標値も同じになっている。できたら、支援をたくさんしていただいで多くならないかと思うのですが。
事務局	担当課としては、少なくとも1年に1事業所は増やしていきたいという思いで書いているのだと思います。
委員	例えば、現状値が10件あったら31年までに6件増えるということなので、目標値は16件という書き方にしたらいいのでは。
事務局	確かに同じことではあるのですが、見た目は分かりやすいかもしれません。
会長	商工観光課のパフォーマンスとして、力量から言えば、平成25年も31年も年1件ということは力量が変わらないと言っている訳ですよ。そうでなくて、力量を上げてほしいということですか。
委員	そうです。
委員	起業に関するところですが、安芸高田市に空き家や空き店舗もあるので、起業とイコール空き家や空き店舗の活用がリンクしていると思うのですが。尾道は空き家をうまく活用されていて、市がそこを全部バックアップしているのではなく、NPOがやられているのですが、Iターンが1件、2件増えると、そこからさらに人が人を呼ぶと言いますか、Iターン者がIターン者を呼ぶ形で、うまくIターンの人数と空き家の登録数、空き家に入りたいという問い合わせもかなり高い。田舎に住みたいという人は、田舎でどっちかというと自分で事業を起こしたいとか起業したいという人がこれから増えるのではないかと思いますし、田舎に雇用の場を求めてくる人は、正直少ないと思います。起業や意欲のある人にもっと支援をされたら良いのではないかと思います。具体的には、例えば空き家を1年間分は家賃を半分にするとか、光熱費はとか、やはり起業するにも3年我慢しなければ

	<p>ばいけないと聞くので、その1年・2年を行政が支援したり、Iターン者が気軽に入れるような雰囲気づくりも大事になってくるので、今回私がI・Uターン者の集まりをするのも、I・Uターン者が来ても横の繋がりが出来ていない、ローカルな友人がなかなかできないので、前に住んでいた友人を安芸高田市に呼んで交流を図っているという話も聞くので、起業の部分で空き家や空き店舗の活用や移住者の横の繋がりの場を持つような仕組みをリンクして充実させていけたらと思います。</p>
会 長	<p>これも縦割りではなく商工観光課だけの話ではなくて、I・J・Uターンのコミュニティを支援することによって、実質的には起業支援になるという流れですね。良い働き口が無いと言って地方に入ってくるのではなくて、そこで自分でレストランをする、カフェをするといった人たちが増えてきている。尾道の場合は、今や戦略的には一人の女性がすごい戦略家ですが、Iターン、Jターンを入れる人を選んでいきます。誰でも入ってくれとは言っていないのです。そのために、この木造建物の3階は日本のガウディ建築ですよといったようにコピー自体がうまい。景観を維持しながら入居してくれとか、元銭湯の空き店舗をこういう風にしてくれとか、受け入れ側の要求をきちっと示して入ってくる人たちに対してちゃんと示している。創業支援には、もっと条件があって、起業資金とか繋資金とかファイナンスの方のシステムが入ってきていなかったりするのですが、もともと借入する担保が無いという場合があって、誰が支援するのかということになる。もちろん退職金や自分の資産をもって思い切って開業する人もいるのですが、他の資金的な支援のシステムを、最近で言えばクラウドファインディングを、面白いビジネスだから5千円ずつとか1万円ずつとか出そうという話で、人との繋がりに資金を投入する不特定の人たちのコミュニティがあるのだと思います。もちろんそれに対するお金は行政が一部を出していただいて、つまり開業資金に対する小さなお金は集めていただいて、当時のメセナみたいなお金持ちの支援システムではなく、また公共の助成金だけではなく、市民の助成金と言いますか株主になるということもあるので、商工観光課だけの話ではないのかもしれない。ここでは担当課として起業支援の充実を図るところの中では、支援体制の充実をどこまでイメージできるか。なかなか各論まで書けないところもあります。ただ、この話の発端は、目標値が表現の仕方や目標値の設定の仕方が、もう少し考えないといけないということですが、事務局はどうですか。少なくとも目標値の表現は。</p>
事務局	<p>もう少し検討させていただきます。</p>
会 長	<p>同じパフォーマンスでも、増えている書きの方が良いかもしれません。皆さんもアイデアがありましたら是非お願いしたいと思います。時間の関係もありますが、委員の皆さんの興味深いところの項目で構いませんので、アイデアなり意見なり感想なりご発言をお願いします。</p>
委 員	<p>この会に出席させていただいて、行政の方は一生懸命努力されていることを目の当たりにしながら、我々も地域で頑張らないといけないという自覚の一つを、10何年努力してやっと明るさが見えたのではないかというのが2・3、皆さんの指摘の中から思い出しました。我々の集落が消滅するのではないか、だんだん無くなって人口が減ってきていて件数も30数件あった集落がもう20件台になったとか、空き家が沢山あるよねと。広島市の人に聞いたら団地が同じような状態になっているという話を聞いたりしまして、じゃあ我々としてどうしたらいいかということで、春と秋の大掃除の日に空き家の周りをきれいにしようということで、草刈機を持って行ってきれいにしていたら、何件かあった空き家</p>

	<p>が、息子さんが転勤になったり、すぐ買い手がついたりして、どうして買われたのかを聞いたら、周りがきれいだから入ってみようと思われたと簡単な答えでした。やはり我々も地域を掃除するもの自分の家の周りや公共の場だけでなく、そういった場所も丁寧にすべきだなと言っていたら、また2件目も決まりまして、いい具合に少しずつではあるが売れて行っている。そういう努力も地域でしなければいけないなと思いました。もう1つ、市の方をお願いするばかりでなく、我々も会議などを努力しなければいけないということで、地域振興で今年は総替えまではいきませんが、12年間私は地域のお世話をさせていただきましたので、もう年ですし、やめさせてほしいと辞表を出しましたが、組織改革をするからもう少し待ってくれと組織改革をしようということで、その話をずっとしてきまして今年全部変えました。どう変えたかと言いますと、若い30代、40代の人を全部、それぞれの部が3つ4つあるのですが、その部長になってもらいました。そういう方は仕事がありますので、その副部長にはリタイア組がなろうということで70代、80代のものが副会長になって、会議は夜か日曜日にして、行事は日曜日にして、主には若い人が担当する。公の会議には副部長が出ようということになりました。それを地域の役員会で報告し合って埋め合って、地域の行事を成功させようと、今年度初めて30代、40代の人にやっていただいたらちょっと違っていて、例えばグラウンドゴルフをやりましたら優勝したらすぐ賞状が出てくるんです。我々が主になって世話をしていた時は、賞状は2・3日待ってください、後から持って行きますというやり方でしたが、30代、40代の人だとその場で賞状がすぐ出てくるのです。びっくりしました。それから、祭りをやりましたら、毎年小さい集落なので、多く集まって200から300人だったのが、今年は若い人に全部やっていただいたら500人以上が集まりました。中身が全然違っていて、我々がやると演歌や流行らない神楽に安く来ていただいたりとかでしたが、若い人に頼んだらテレビで出てくるようなのばかりが出てきまして、こんなことがあるのかと思いました。若い夫婦の方がこんな会なら毎年やって下さい、年2回でもいいです。広島の親戚を全部集めてでも来ますという話まで聞きました。私は形だけ責任者でしたが、お礼の電話や手紙をいただきました。何が言いたいかと言いますと、この会に参加させていただいて考える機会をいただいて、行政だけを頼るのではなく、我々地域の者がなんとか若い人に協力してもらいながら会を盛り上げていく地域にしていかなければならないと、皆さんにお礼を言いたいから言いました。</p>
<p>会 長</p>	<p>謙虚なご発言でしたが説得力のある内容でありました。世代交代という事業継承の形が一般企業でも大変な課題になっていますし、地域を維持することも事業継承として課題になっています。馬跳びみたいに年の多い世代の人が屈んで若い世代がそれを追い越せるようにしてあげることが、地域にも必要なのかなと感じました。自助の改革力、共助の充実、公助のネットワークを展開されている気がしました。</p>
<p>委 員</p>	<p>細かいことで申し訳ないのですが、資料の2で5ページの(4)で、減少が続いているので文章が切れているので体裁上の問題があるのと、資料3の4ページで自然減の要因というところで、この書き方だと誤解を与えかねないかと思ひまして、人口の自然増減がありますが、自然減の要因で一番大きいのが死で、合計特殊出生率ではないのです。一番の要因は高齢者が沢山亡くなっていることで、そっちが意外と見逃されがちなのです。これだといかにも子どもを産んでない人が悪いという感じになっていて、自然減や社会増減は一般の人がこれを見たときのことを考えたときに、前のページや人口ビジョンでは表示され</p>

	<p>ているとは思いますが、単純な事なのですが、高齢者の死亡によって人口が減少していることが一番の要因です。出生率が問題になってくるのは20年後ぐらい。さらに、その下の図ですが、出生率の推移が書いてあり、まさにその印象が深く印象付けられる。もう1つ書き方の問題だと思いますが、○の3つ目ですが、「未婚率の上昇が、出生率は増加するものの出生数が増加しない原因となっています。」と分かったような分かりにくいのですが、どういう意味か分かりにくい。次の段の「婚姻率を高め、さらに出生率を高める」と展開されています。婚姻率と出生率の相関関係、出生率と出生数の関係ということですが。</p>
事務局	<p>このことは、ワーキング会議の中でも議論があったのですが、中山間地域、いわゆる過疎地域の市町村が合計特殊出生率が高くなっている。要するに、分母が100万都市と人口が少ないところでは分母や分子により、かなりばらつきが出てくる。分母が100万の場合と分母が500人の場合では、その率がかかなり違う。安芸高田市は1.66ですが、多い時には2%ぐらいの時もあり、その年度に生まれてきた子どもの数が2人、3人違うだけでパーセンテージがかかなり変わってくるわけです。出生率は高くなったと言っても実質の子どもの数は増えていないというのが実態であります。そのため、出生率で議論していくと、あたかも都市部より高く、多く産まれていると思いがちですが、現実的には分母と分子の相関関係で出生率は高くなっても出生数は増えていない。その意味合いをここで書いています。</p>
委員	<p>その辺の補足を、難しいとは思いますが、この書き方だと未婚率の上昇が大きく影響しているかのようなので。</p>
事務局	<p>今のところは、資料2の38ページになりますが、おっしゃられたように分かりにくいということで、赤字の部分で「これは出生率算定のベースとなる、出産年齢女性の減少が原因となっています。」と言いたいということで、このように修正していますので、似た表現でご指摘の部分を変更するように考えます。</p>
会長	<p>原因という表現と要因という表現は、行政的にはどのように使い分けておられますか。私のイメージでは、原因は悪い方の原因で、要因は良い方の因果関係というように使い分けて文章を書いています。人口減が悪いことか良いことか分からない人口減少とその要因と書いてあって、人口減少は悪いわけではない、また良いわけでもない。その時の表現はどのようにされていますか。自然減の要因のところ、3番目の○の文章では増加しない「原因」と書いてあるのですが。国語としては、皆さんどのように使い分けていらっしゃいますか。これが間違っているというわけではなく、原因と要因はよく使う言葉で、例えばカーブが負けたときは原因と言って負けた要因とは言わないですね。勝った要因とは言いますが。事務局で検討していただいてこのままでもいいですし、処理されてもいいです。他にご発言はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>莫大な量ですが、これをやることによって地域に住んでいる我々もそうですし、住める地域であることが目的であったり、他所から入ってくる人を増やすということですが、その人はその人でそれぞれの地域に住んでいて、安芸高田市に人が増えたら例えば三次から安芸高田市に通う人が増えたら、今度は三次の方が議論になってどうして三次に住まわずにという逆のことがどんどんどこでも出てくる。あくまで安芸高田市に住んでいる我々がうまく回っていければ。自分から来た人は根付くと思うのですが、呼び込んだ人は出て行く率は高いと思うので。</p>

会 長	<p>施策の中で楽しみを迫及するということが、子どもを観察していると何が楽しいのだろうかということもありますよね。そういう視点も大事かもしれません。相対的楽しみや幸せは相対的な部分と全体的な自分の感性の中の楽しみと両方あると思うのですが。</p>
委 員	<p>私も思ったのは、資料3の50ページの子どもの教育の部分ですが、豊かな心の育成などがありまして、文化・伝統などを学習するとあるので、人口の比率を見た場合に高校・大学と子どもがどんどん出て行くのをいかに止めるかも大きな課題であるので、せつかく安芸高田市で育った人たちですから、出て行くのを止めることを考えたときに、例えば小学校・中学校の時に、このページには国際交流が書いてあり良いことではありますが、安芸高田市をもっともっと、自分たちの故郷を知ってもらうような学習体験などを、例えば川根に行ったことがないと、安芸高田市民でもエコミュージアムなどに行ったことが無い人もいますので、本当に良い所は沢山ありますので、子どものうちにそういった安芸高田市の良さをしっかり知ってもらっておけば、あれがない、これがない何もないではなく、安芸高田市にはこれもある、あれもあるということをお小さい時から覚えておけば、また帰ってきてくれるのではないかと思います。良さが分かるような学習などを子どものうちからしていくことが必要だと思います。</p>
会 長	<p>総合計画の時の中学生のアンケートだと安芸高田市の自然に対する誇りを持っていました。高等教育になってくると外に出ざるを得ない部分も出てくると思います。その方々がUターンしてくれるように、地域に愛着を持つ1つの教育方法としては、前回の懇話会で私が意見を述べましたが、教育的には小・中一貫教育や義務教育のうえで地域の特性を活かした一貫教育、場所が一つということではなく、地域の教科書となるわけですが、それを教育委員会の方で1つの方法論で、なくはない。要するに郷土愛を育むということが、地域の義務教育の1つの大きな柱になってきていることは事実だと思います。教育関係の施策のところでは、48ページ以降の施策にいくつか関係するところがないことはないですね。</p>
事務局	<p>資料1の10番になりますが、前回の懇話会でも同じようなご意見をいただいて、安芸高田市の良さを十分理解していないということがありますが、教育委員会の方では郷土を誇れるような子どもを育てるという中で、小学校では郷土理解学習副読本というものを作っています。「安芸高田市ものがたり」と言って、非常に良くできています。また、中学校では「郷土！安芸高田市」という冊子を作っています。それらは一般の授業の中に郷土理解学習ということで活用しています。悪い所ばかりを見るのではなく良いところを、自分の住んでいる地域を知らない子もいっぱいいますので、そういったところも副読本に盛り込んで郷土自体を理解してもらい、安芸高田市の良さを見つけ出して、学校を卒業したら安芸高田市に戻ってこよう、そういう子どもの心を育てることがこの郷土理解学習副読本の趣旨です。資料3の50ページの施策番号26の○の1番上に、今言ったことについては記載しています。</p>
委 員	<p>本を読むだけではなかなか分からない。子どもに本を渡して読んでおけただけでは、やはりやってみないと分からない、行ってみないと分からないのが実際だと思います。子どもにとってこれが安芸高田市と本を渡したただけでは、知ろうと思っても、そこへ行って体験して怪我をしたりという中で、体が覚えていくということがあるので、そういう機会の方もしっかりしていくということも大切だと思います。</p>

会 長	<p>先ほど話がありましたが、世代交代して若い人が軸になって家族で行こうかなという話で、地域の力が学校教育を基に発揮されていけば、まちづくりになると思います。親の世代が学校教育のきっかけに前に地域に子どもたちを連れ出す、そこにもっと上の世代が色々知識ではなく知恵を授ける機会が出来てくるのが魅力ある地域なのかなと思います。</p>
委 員	<p>世代交代の話を聞いて、地元の話ですが、地元色々な祭りがある中で、70歳ぐらいの同じ人たちがずっとやられていたのですが、今年は祭りでステージを組むのに、さすがに危ないということで業者さんに頼んだりという案が初めてでました。祭りなどでもなかなか若い人の足が向いていない。知識は必要なのでその方々は客に回って、新たな30代・40代などの若い人たちが変わっていかないといけないと思ったのと、私の年代でもなかなか参加する人がいないと思いました。また、Iターン、Uターンで私の近くでは出て行った人しかなくて、帰った人に話を聞くと、お店があるとか家があるとかの理由の人しか周りにはいないなと感じます。地域のコミュニティなど横の繋がりが、いきなり田舎に来て無いというのが問題なのかなと思いました。</p>
委 員	<p>森林の管理と森林の整備ですが、施策にあるように安芸高田市の森林整備計画に基づいて、随時森林経営計画により計画的な森林整備を行っていく施策になっています。これは当然のことで進めて行くべきことで、この通りで良いと思います。農地の方でも問題となっていますが、林地の方でも問題となっている有害鳥獣に対する防護の対策に対する労力等もかなりかかっていると思われます。また、美しい景観の形成にも関連するのですが、農地を取り囲む森林をなんとか随時整備できないか。これがシステム的に確立できれば、有害鳥獣の対策にかなり効果がでるのではないかと思います。その農地を囲む森林を整備していくことが、今で言えば広島森づくり事業、これによる里山整備しかないで、それ以外にもできるシステムを確立することが今後の課題ではないかと思います。これを施策にあげるの、今はまだ無理だとは思いますが、今後の課題になってくると思います。</p>
会 長	<p>これからと言っても、今現実に大きな課題です。施策に林業基盤の整備や管理、多面的機能の活用等で触れてはいますが、大事な課題なので、是非担当課については具体的な形で目標値を達成するようにしてほしい。</p> <p>さて、用意しました協議事項につきましてはこれぐらいで、その他については皆さんの方からご用意されたものが無いようでしたら、事務局に。</p>
委 員	<p>追加なのですが、資料3の30ページに低所得者の自立支援が網掛けになって削除されるようになっていますが、子育て支援のところ育てる場を整えるについているから削除されるのかもしれませんが、課題は子育てばかりではなくて、環境を考えると生活困窮が一番底辺にあるのではないかと思います。そのときに、ここでは経済的な支援をしますとか多様な働く場を整えるなどが書いてあるので、そこらとリンクさせていただいて生活困窮により色々な問題が出ていますので、結婚できないのも、お父さんも働いてお母さんも働いてと子育てが次にきているから、2人で支える仕組みになっているので、生活が豊かになれば子どもも増えるのではないかと思います。低所得者の自立支援、生活困窮者の対策も是非ともやっていただきたい。</p>
会 長	<p>冒頭に説明があった内容では、この項目については通常の業務なので削除するという事務局の説明があったと思います。</p>

委員	どうしても出生率や婚姻とかにいくわけですが、実際は生活困窮が一番問題があるので国が対策をしている。仕事はハローワークに繋いだり就業支援や経済支援ができてくると都会から田舎にも帰ってくるのではないかと、そこが重要なキーワードではないかと思えます。考えてみていただければと思います。
事務局	この項目で言いますと、生活保護法や生活困窮者自立支援法などの法律で当然にやること書いてありましたので、総合戦略からは外したわけです。
委員	記述の問題なので、育てる場を整えるの中で、子育てを経済援助するのも分かりますが、全体的に家庭を支えるという取り組みをしないと子育ても出来ないと思えますので、そこもしっかりサポートして、お父さんも働いてお母さんも働ける環境ができれば、子育ての支援も経済支援もしますし、経済対策のところでも多様な働き方を支える環境づくりをすること書いてありますので、生活困窮のところの部分も、もう少しどうにか出来ないかと思ったわけです。
会長	趣旨は分かりますが、総合戦略の戦略的にやるときに、これを削除した理由は、資料4に書いてありますように、通常の業務や行革の項目は掲載しないという形でリストアップされて分類されているわけです。総合計画には入っているので、総合戦略に合うように振り分けただけの話で、決してないがしろにしているということではないと理解していただければと思います。
事務局	総合計画の中では、施策は中で網羅していますので、ただ、総合戦略の趣旨からしたときには、制度的なものや通常業務や行政改革の項目については、地方創生とは少し趣旨が違うということで、その項目は外させていただきました。決してそのことをないがしろにするということではありませんので、基本は総合計画がベースですから、総合戦略はその中で特に地方創生に繋がる施策を網羅したということです。総合計画が自治体の最上位の計画でありますから、そこはきちんと担保されているということをご理解いただきたいと思います。
会長	資料3の2ページに、国が言っている地方版総合戦略で、□の中で忠実にこれを行っているわけです。それで総合戦略の案を編集したわけです。例えば、真ん中に「これらの理由から、地方版総合戦略は総合計画等とは別に策定してください。」となっていますので、焦点や具体的内容が分かれてくるのだと思います。
委員	生活保護のことを言っているのではなく、若い人のことを考えたときに、今の生活よりもレベルアップしますよというような取り組みをお願いします。
会長	ありがとうございました。事務局からその他で何か無いですか。 それでは、つつい私は安芸高田市のことで入れ込みすぎて予定していた時間をはるかにオーバーしてしましまして、皆さんにご迷惑をおかけしましたが、皆さんの忌憚のないご意見をたくさんいただくことができ、大変うれしい内容になりました。 私の方からの進行はこれくらいにいたしまして、後で説明があるかもしれませんが、パブリックコメントの内容や今日の皆さんのご意見や、また今日終わってからまだこういうことがあったということがあれば事務局にお伝えいただきまして、最終的には私と副会長で内容について最終的に意見を盛り込んでいきたいと思えますのでご理解いただきたいと思います。進行を事務局にお返しします。

事務局	<p>4. 事務連絡</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日は、大変色々なご意見をお聞かせいただきありがとうございました。</p> <p>今、会長からございましたように、今後のスケジュールでございますが、本日までの懇話会の皆様からの意見や、パブリックコメントでの住民の方の意見を踏まえまして、まとめを正・副会長で行っていただくように考えています。その後、総合戦略を10月末の策定ということで詰めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、閉会にあたりまして、久保野副会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
副会長	<p>5. 閉会あいさつ</p> <p>吉長会長さんの広い視野からお考えいただき、また我々委員の皆さんはそれぞれの分野・地域の考えをしっかりと出していただき、また、市役所の方は事務的なご努力をいただいて、何とか安芸高田市の将来像が10月には出来上がるのではないかと期待を膨らませております。今日は雨も降っておるようでございますので、ご注意なさってお帰りいただければと思います。大変、長時間有難うございました。</p>
事務局	<p>それでは、以上で第3回の懇話会を終了させていただきます。</p> <p>なお、今年度3回にわたり熱心に協議いただき誠に有難うございました。来年度以降も、検証の部分では是非皆様をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日は有難うございました。</p>